未来への力を感じるミャンマーに現地法人を設立

～大型クレーンや独自開発の機材で難易度の高い橋梁架設にも対応～

株式会社 野田クレーン

代表取締役社長

野田 重秀氏

●住　　所：大垣市赤坂新田3丁目16-1
●T E L：0584-91-9000
●U R L：http://www.noda-crane.co.jp
●事業内容：PC橋・鋼橋の架設（撤去）計画・施工
クレーン（架設機材）のリース／一般貨物輸送事業／シニアマンションの運営／キャプテン翼スタジアム垂井の運営
●従業員数：162人（2024年4月）

■ 終戦直後、自動車修理工場として創業

聞き手：まずは御社の歴史や事業内容についてお聞かせください。

野田社長：当社の歴史は、1946年（昭和21年）に初代の野田 孝夫が「野田自動車工業所」として、自動車の修理や中古販売を始めたところからスタートしています。その後、1965年頃に中古のクレーン車を買い取ったのが事業転換のきっかけとなりました。当初は販売目的で買い取ったわけですが、脱輪してしまった車の引上げをはじめとして、地元の赤坂近辺で石灰工場のプラント建設が始まったこともあり、“クレーンを使うことが仕事になる”ということに気付いて、1966年からクレーンのリース業を始めました。

ちょうど新幹線や高速道路の建設が次々に進められていた頃で、橋梁の架設・撤去や修繕の仕事もたくさんありました。クレーンがあれば橋が架けられるということで、次第に橋梁架設が事業の中心となってきたのです。これまで長い期間にわたり様々な橋梁に関わってきましたが、「ナンバーワンよりオンリーワン」を合言葉として、「野田クレーンだからできる仕事」に積極的に取り組んでいます。

■ 震災の復興工事が橋梁架設事業の後押しに

聞き手：転換点となった出来事はありますか?

野田社長：橋梁工事にとっての一つの転換点は、1995年に発生した阪神・淡路大震災ですね。それまでも橋梁は手がけていましたが、復興工事の規模感がとにかく大きかったものですから、自社内で大型機材を開発して投入するようになり、次第に事業内容のうちで橋梁工事が占める割合が高くなる契機となりました。そして私自身、当社に戻るきっかけになったのがこの震災でした。

もう一つは海外への展開ですね。少子高齢化が進む中、いずれは外国人雇用も考えなければならないと考え、いち早く海外訪問にも取りかかりました。ベトナムやインドネシアにも出向きましたが、取引先企業からの声掛けもあり、まだまだ発展途上のミャンマーで人を採用しており、2020年には現地に「NODA CRANE Myanmar」を設立しました。ミャンマーはクーデターがあったりと懸念材料もありますが、この国でならできることがあるのではないか、と大きな可能性も感じています。

聞き手：決め手は人柄ですか?

野田社長：そうですね。何よりミャンマーには橋を架ける事業もまだたくさんありますし、未来は明るいと感じています。今では10名超の社員が日本で、エンジニアとして頑張ってくれています。

聞き手：受入には言葉の壁もあると思いますが、その辺りはどうでしたか?

野田社長：ミャンマーでは教育機関がしっかりしていて、彼らは面接の時点で既に日本語がしゃべれましたし、日本

▲ 相吊り工法

▲ 横取り機

【写真左】
野田クレーンの車輌と言えば、オレンジがかった黄色の車体、クレーンが特徴的。本社の駐車場には、様々な大きさのトレーラーやクレーンが並ぶ。

【写真右】
実際の橋梁架設現場の様子。桁を支えている機材は自社開発のもの。

に来る時には（日本語能力試験の）N3、中にはN2を取れるレベルの方もいました。1年間くらいは勉強していないとなかなか身に付かないですからね。

聞き手：地域貢献活動についても教えてください。

野田社長：旧越波（おっぱ）村（現・本巣市根尾越波）に廃校となった小学校があり、そこを綺麗に改修し、宿泊できる施設にしました。管理をしているNPO法人をサポートするような形で、夏にはバーベキューをしたりホタルの鑑賞会をしたりと、年2回、有志で宿泊しています。

その他にも、最近はシニアマンションの運営もしていますし、垂井町では空いている土地を有効活用しようという話から、フットサルやサッカーのためのスタジアム「キャプテン翼スタジアム垂井」を建設しました。地元にレインボーというチームがあったことから、本拠地として使ってもらっているほか、子どもたちのサッカースクールとして活用しています。

■ 部署間での連携関係を築いてほしい

聞き手：人材育成に関するお考えもお聞かせください。

野田社長：野田クレーンという会社の中には、工事をする部署、クレーンの部署、トレーラーを運ぶ部署など様々な仕事があります。現場をうまく回していくためにも、部署間で協力関係を築いてほしいと思いますね。それがこれから大きな仕事を手掛けていくための基礎になると思っています。

聞き手：人材採用への想いはいかがでしょうか。

野田社長：建設業というのは、学生さんにとってイメージがあまり良くない部分があるのは事実です。とはいえ、今はAIやDXといったサポートもありますが、現場はやはり人間力で作り上げていくものだと思うんです。そこはまだまだ変わらないと思いますし、社会にとってなくてはならない仕事であるとも思っています。道路を作ったり橋を架けたりという社会資本を作っていく仕事に対して、“キツい汚い”という面だけでなく、人の役に立てることを誇りとして、やりがいを持って取り組んでほしいですね。コンピューターでは仮想空間は作れても、現実の世界を造ることはできないわけですから。

実のところ、暑い日も寒い日も外で作業をするような仕事こそが人間にしかできないことで、なくてはならない仕事です。これからは人手不足も極まる時代で、ミャンマーで頑張っている社員にこちらに来てもらったり、技能の習得後には国に戻って仕事をしてもらったりと、うまく行き来してもらえるようになると、これからの時代に向けて大きな力になるだろうと思っています。

■ アジア圏でのさらなる進出も視野に

聞き手：今後への展望についてもお聞かせください。

野田社長：会社の発展を考えるに、アジア圏では現在ミャンマーで仕事をしていますが、今後は他の国への展開も考えていきたいですね。

私自身は大学卒業後、タイヤがたくさんついているような特殊車輌の取扱いに憧れて山九㈱に就職しました。当社でもやっと最近、当時憧れていたような特殊車輌を購入しました。独自開発の機材も含めて、大きな設備や特殊車輌も活用し、難易度の高い仕事に今後も挑戦していきたいですね。

聞き手：最後になりましたが、休日の過ごし方やご趣味についてもお聞かせください。

野田社長：まだ子育て世代ですので、休日は子どもと遊んだり一緒に勉強したりしていますね。趣味としては、ハーレーダビッドソンのバイクを愛用していて、たまに愛好仲間との集まりに出かけるのが楽しみです。社員旅行でアメリカに行った際には、社員数人と現地でレンタルして乗ったりもしましたよ。車も好きで、趣味で乗るものはマニュアル車ですが、今後、自動運転システムが進化していくのも楽しみだなと思っています。

聞き手：本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き手　（一社）岐阜県経営者協会
広報担当　林　拓弥

経協ニュース

第13回 定時総会を開催

6月3日(月)岐阜グランドホテルにおいて開催し159名にご参加頂きました。開会にあたり、山口会長の挨拶の後、ご来賓の田口 博史氏(岐阜県商工労働部次長)、千葉 登志雄氏(岐阜労働局長)よりご挨拶いただきました。

その後、下記の議案について審議され、原案通り承認されました。

第1号議案　令和5年度事業報告および収支決算の承認を求める件

第2号議案　令和6年度事業計画および収支予算の承認を求める件

第3号議案　役員補充選任の件

総会終了後には記念講演として小平 奈緒氏(相澤病院)をお招きし、「知るを愉しむ」と題しご講演いただきました。

第56回高校求人懇談会を開催

5月28日(火)岐阜市文化センターにて開催し、会員企業146社、県内高校44校より計290名にご参加を頂きました。

冒頭に高校求人専門委員 委員長 中村 寛人氏(㈱KVK)、岐阜労働局職業安定部 訓練課 課長補佐 岩田 修氏、岐阜県教育員会 特別支援教育課指導主事 高田 竜平氏、岐阜県立中津商業高等学校 丸山 裕氏よりご挨拶をいただきました。

その後はブース面談式の懇談会を実施し、企業と高校の情報交換を活発に行って頂きました。

岐阜県企業探検会を開催

6月8日(土)じゅうろくプラザにて開催し、企業23社、学生約50名にご参加いただきました。

岐阜県の企業を早い時期から知って頂くことを目的に開催し、各ブースでは自社の事業概要や、夏季インターンシップの計画等の説明があり、多くの学生は積極的に複数のブースを訪問していました。

大学求人専門委員会を開催

6月17日(月)グランヴェール岐山にてハイブリッド形式で開催し、加藤 昭彦委員長(㈱ナベヤ 専務取締役)はじめ10名の委員にご参加頂きました。

事務局より2025年3月卒業予定者対象事業 報告と、2026年3月以降卒業予定者事業 計画(案)について説明し、審議の上、ご承認いただきました。

その後は意見交換会を行い、今後の事業運営に関してご意見をいただきました。

第58回 監督士養成講座（4・5・6講）を開催

第4講　6月6日（木）職場コミュニケーションと部下後輩指導

講師：加藤 健氏

職場における人財育成の重要性や、OJTの進め方、指導の基盤となるコミュニケーションについて解説しました。途中のグループワークでは意見を全体に共有することで、理解をより深めることができ、行動スタイル診断・傾聴実践・1on1ミーティングなどの演習による体験を通じて、ご参加いただいた皆様それぞれの最適解を考えていただきました。

第4講の様子

第5講　6月13日（木）職場の安全衛生

講師：矢野 昭尚氏

第4講の様子職場の安全衛生をテーマに監督者の役割をはじめ、災害発生時の対応、「4M4E」の手法を用いての再発防止案、未然に防ぐための危険予知訓練やリスクアセスメントによる対応を演習を通して解説しました。また、ヒューマンエラー防止策の参考として、人間の特性についてビデオを見たり、計算問題に取り組んだり、様々な角度から体感していただきました。

第5講の様子

第6講　6月20日（木）ものづくりスキルと改善の進め方

講師：川崎 衛氏

管理監督者に求められる力や管理業務、5 S の着眼点と活用法について解説しました。演習では、リンゴの皮むきの模擬体験を行いました。加工時間の短縮や、品質を確保しながらコストダウンする方法を考え、実行した結果をもとにグループ毎に改善案を発表することで理解をより深めました。

第6講の様子

支部総会 開催報告

●西濃支部 総会　開催日：5月22日（水）
会　場：大垣フォーラムホテル

●東濃支部 総会　開催日：5月28日（火）
会　場：とうしん学びの丘 エール

●中津川支部 総会　開催日：5月28日（火）
会　場：中津川商工会議所

●岐阜支部 総会　開催日：5月31日（金）
会　場：岐阜グランドホテル

●各務原支部 総会　開催日：6月5日（水）
会　場：かとれあくらぶ

当協会ホームページサイトへの
「QRコード」はこちら ▶

※上記の各支部総会につきましては、当協会ホームページ内の「経協ニュース」に詳細記事を掲載しております。

～会員の皆さま～　新規会員を募っています。

当協会では、より多くの県内経営者の皆様に岐阜県経営者協会をご利用いただきたく、新規会員企業を募っています。当協会の趣旨にご賛同いただける経営者の方がいらっしゃいましたら、事務局員がご説明にまいりますので、何卒ご紹介くださいますようお願いいたします。

岐阜経協の活動は、当協会ホームページ（https://gifukeikyo.org）でもご覧いただけます。

最近の景気動向

■日本経済長期低迷の背景

日本経済の長期低迷は、1985年9月のプラザ合意に始まります。米国はＮＹのプラザホテルに日独英仏の蔵相・中央銀行総裁を呼んで、「このままだと米国経済はもたない」とドル安容認を要請、各国は合意しました。しかし、米国の裏の狙いは日本経済の弱体化でした。

ドル安は円高を意味します。85年8月末のドル円相場は237円でしたが、87年末には122円になりました。

これでは、輸出でメシを食ってきた日本の製造業はやっていけません。日本の高度成長を支えてきた製造業の多くが韓国や台湾さらには中国、東南アジアに流出。不要になった工場用地の多くが売りに出され、バブル景気収束後のデフレの一因にもなりました。

80年代後半には過剰な低金利を続けてバブル景気が起きましたが、それが終わると「経済の空洞化」によって不況が常態化しました。若者は明るい将来設計が描けないので、結婚に二の足を踏むようになり、少子化が進みました。人口が増えないので国内の消費市場も縮小。個々の中小企業は売上が伸びないので給与水準も頭打ち。少子化の悪循環が始まりました。

逆に日本企業が多く進出した国々とりわけ中国では低賃金と日本からの技術移転によって様々な工業製品を生産。「世界の工場」として台頭しました。

円相場は、ドルに対する円の交換比率です。世の中に出回っているドルの流通量（マネタリーベース）以上に円の流通量を一方的に増やせば、円安になります。しかし、日本の通貨当局は米国から「為替操作国」と言われるのをおそれたのか、円の流通量を増やしませんでした。

逆に、米国は経済危機の際には、自国経済を守るためと称してドルの流通量を一方的に増やします。リーマンショックや東日本大震災の際には、70円～80円台の超円高になりました。

■円安は安倍元首相の置き土産

2012年12月に再登板した安倍元首相は「日本経済の長期低迷は実力以上の円高が主因」と見抜き、日銀の黒田前総裁とアベノミクスを始めました。しかし、その実態は円安誘導策でした。米国は対中包囲網での連携を重視したのか、何も言わなかったので、日本は円の量を自由に増やすことができました。民主党政権下で70～80円台だった円相場は2015年3月には120円台になりました。

円安が10％進めば、経済成長率は1％上昇します。コロナ禍で一服しましたが、日本経済は復調。日経平均株価は今年3月に34年ぶりに史上最高値を更新しました。そうした意味において、現在の円安は安倍元首相の置き土産と言えます。

円安の弊害も目立ってきました。日本の通貨当局も金利上昇を容認するなど、円安阻止に動き出しました。

円安について、バイデン大統領は何も言っていませんが、トランプ候補は問題視しています。「もしトラ」の場合はもっと強力に動くと思われます。

このまま推移すれば、上場企業の利益は微減、日経平均株価の上昇傾向は一服する可能性があります。

■地元経済の現状

各種の経済指標によれば、東海三県の景気は製造業、非製造業ともに総じて良好な水準にあります。

岐阜県の基幹産業とも言える自動車部品製造業は、能登半島地震の影響などで一時は落ち込みましたが、現在は回復傾向にあります。しかし、在中国の日系部品メーカーが日本の国内市場に攻勢を仕掛けています。日本企業が関わった高品質で安価な製品は脅威です。思わぬブーメラン効果に困っています。

高山市や白川村などの観光地は好調ですが、レベルの低い外国人客の急増でオーバーツーリズムの弊害が目立っています。入域税の導入などの対策が急務です。

消費動向はまずまずですが、電気・ガスの補助が5月の使用分までで終了し、実質的な値上げになります。ガソリンへの補助は続きますが、消費への悪影響が懸念されます。

■海外の現状

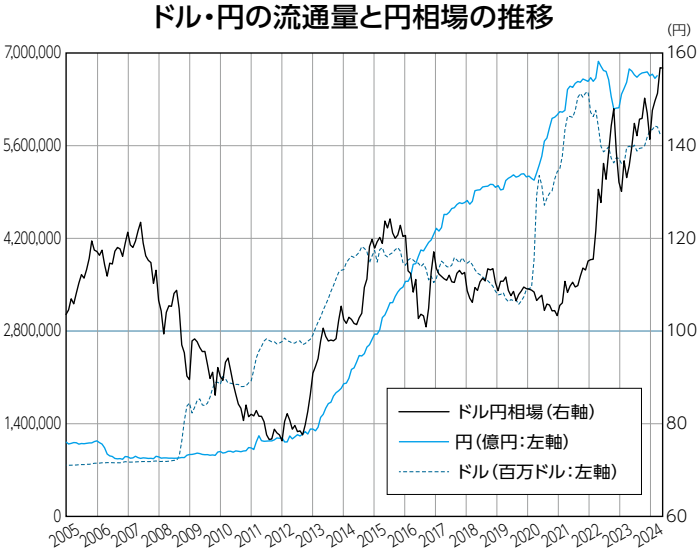
ウクライナ戦争の膠着もあり、世界的にインフレが続いています。しかし、米国および欧州経済は総じて順調に推移しています。

中国では不動産不況が深刻化。カントリーリスクも拡大しています。日系企業の多くは「去るも地獄、留まるのも地獄」という正念場を迎えています。

中国に生産拠点のある県内企業の幹部は「中国は広いので地域差がある。上海郊外ではまだ人手不足の企業もあるようだ」と語っています。

かくして、今年後半の景気は、このまま横這いで推移、あるいは一歩後退の可能性が高いと思われます。

ドル・円の流通量と円相場の推移



出所：日銀、ＦＲＢのＨＰより筆者作成

■ 著者　経営アドバイザー
古田 千尋 氏

1980年　早稲田大学 政治経済学部 経済学科 卒業
1980年　大垣共立銀行 入行
1990年　大蔵省系シンクタンク㈶ 国際金融情報センター 出向
1996年　㈱共立総合研究所 出向（取締役調査部長 他）
2011年　岐阜県可児工業団地協同組合 出向（事務局長 他）